

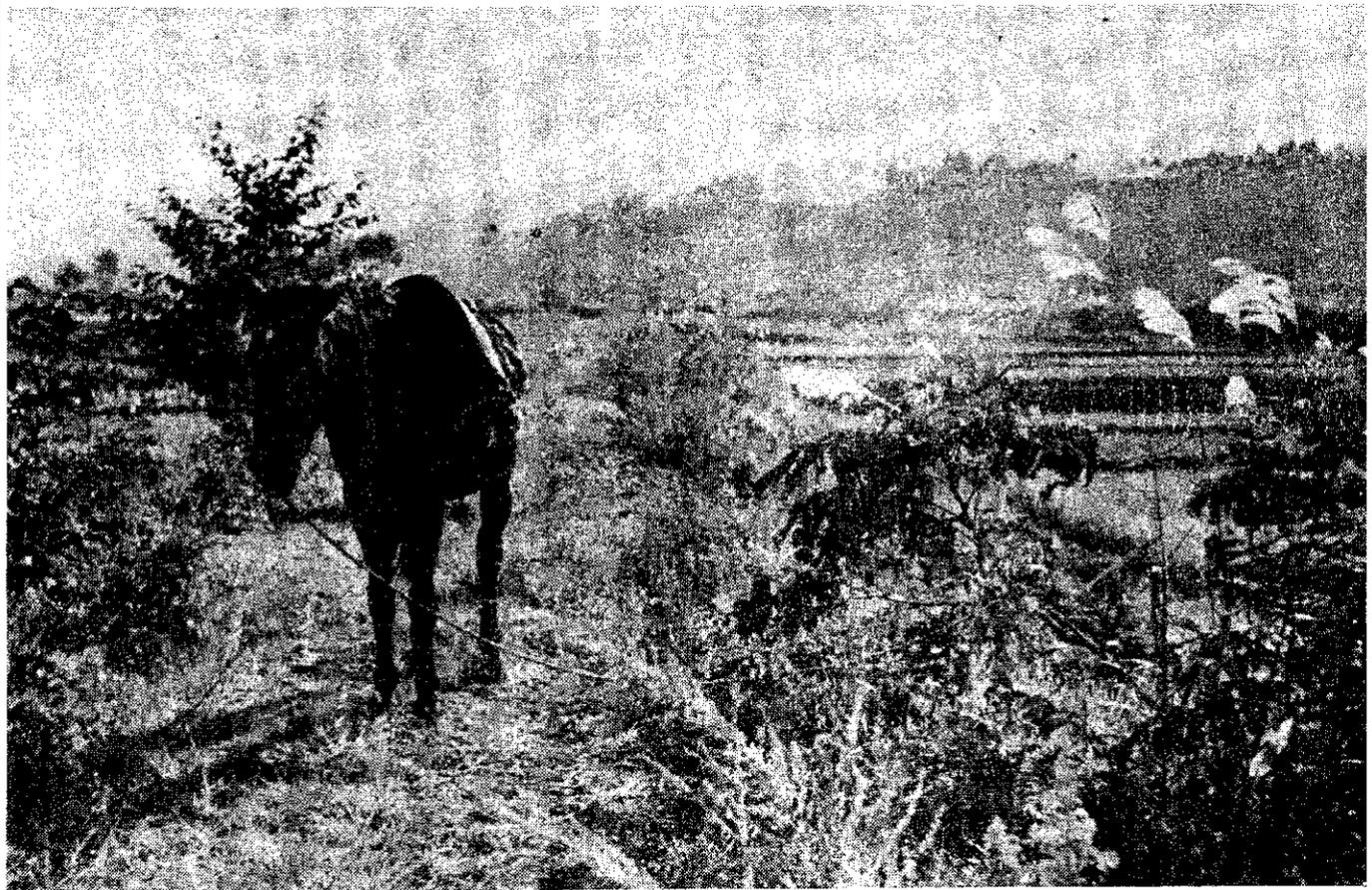
九月のくらし

としよりの
福祉週間

広報かわにし

発行所 川西町役場 編集人 星名四郎
 発行者 川西町 印刷所 白南
 (町長 中村杜吉) 定価 1部5円

人口の動き
 9月1日現在
 男 6,719人
 女 6,941人
 計 13,600人
 世帯数 2,713世帯



大いなる雲の出できし花野かな 素十
 桔梗の花の中よりくもの絲

九月の行事

- 一日 信濃川橋竣工式
- 二日 千手神社祭 県下大相撲
- 三日 町村長慰霊祭
- 四日 国保視察
- 五日 消防演習(川西中)
- 七日 教育委員会
- 九日 新潟出張(町長)
- 岡田正平翁遺徳顕彰会
(奥只見、教育長)
- 十一日 議員長岡高校外視察
- 十二日 市小中学校体育大会
(於 十日町)
- 十四日 寄宿舎運営協議会
- 十五日 としよりの日
保育園運動会
- 十六日 ときわ会(上野)
- 二十日 航空日 動物愛護週間
三千三百 秋分の日 彼岸

体育協会を作りたい

べつに、物想う季節にさきがけたわけでないが、仕事の合い間に一服つけていると、さまざまな想ひにかられ、時として自分を持ってあまってしまう。からだがなまっているのかなあと感じてみたり、レクリエーションが欲しいと要求しているようにも思ったり……

たまたま町ぐるみバレーボールに打ち興する日が早くこないか、というのが口ぐせの青年に逢ったり、

組織だつてもいいことをやれば、それはな問題点があるかも知れないが、いまよりはすっきりしたい形でスポーツを楽しめようと思ふ。残念」といったように、スポーツ愛好者のくつたがはしくてたまらない。

組織を作りあげるといふような大きな問題だと、とほしい知識の故に、具体的な提案などできそうもない。せめて、関係者の間で体育協会結成の気運がもたれ、やがて実を結ぶ秋のくることを祈りたい。

町づくり

くのない笑顔がうかんでくるものなにかしら気持ちを誘うようだ。町民運動会のようなでかい事業はとにかく、毎年、不定例(?)にひらかれる各種の球技大会をもっときちんとした行事としてやったらと思うことがある。

即製の野球クラブが作られて、公民館との共催で町民野球大会をやったことがある。排球の場合でも、同好クラブがやっぱり公民館

と共催し、町民によびかけて大会をひらいたこともあった。

町にいろいろなチームがあるけれど、それは大会を計画したり主催したりする性質のものでもなければ組織でもない。試合に参加して、思いっきり若さを発散したい同好者の集まりなのである。

野球大会を計画しているうちに、野球とはまったく関係のないことで変に気持ちがおこされてくそつやめてしまえ」と思つたことも過去にあった。

町議会報告

選管委員等を改選

議長以下は予想どおり再選

八月二十九日に招集された第八回臨時会は、付議事件の全部が人事問題という異例の議会であった。あらかじめ告示されたのは、九月十四日に任期満了となる選挙管理委員と同補充員の選挙、及び九月十五日に任期満了となる教育委員一人の選任同事を求める件だけであった。しかし、この臨時会の真のねらいは、告示されたこれらの事件より、むしろ正副議長及び常任委員長の改選という議会自体の問題にあったといってもよい。というのは、これらの任期について、自治法の規定にかかわらず、川西町においては一年とする、という申し合わせがあるからである。そしてその一年の任期が来ているので、この臨時会において、当事者から辞職願いを提出するという形で改選が行なわれることになっていったわけである。

丸山・星名氏勇退

選管の陣容を更新

選挙管理委員及び補充員の選挙は、昭和三十四年八月に選出した現委員の状況、及び法律改正の概要について当局の説明を聞いたのち、指名推薦の方法によって次のとおり選出した。

選挙管理委員(四人)

- 平野 梅作(前(東善寺))
- 沢口 由蔵(新(下平新田))
- 須藤 寛蔵(新(下原))
- 南雲 俊平(前(中仙出))

補充員(四人)

- 数藤 治郎(新(沖立))
 - 小海 八太郎(新(小根岸))
 - 木村 正吉(新(仁田))
 - 高橋 喜栄(前(高倉))
- この結果、現委員長の丸山寛治氏(原田)及び委員星名忠太郎氏(霜条)は、九月十四日限り勇退されることとなった。

教委は

上村氏を再任

教育委員の上村省司氏(下平新田)は、きたる九月十五日に任期満了となるが、同氏を再び任命し、全たいという町長提案に対して、全会一致これに同意した。

基本選挙人名簿調製について

基本選挙人名簿調製について、毎年九月十五日現在で調製する基本選挙人名簿は十二月十日確定し向こう一年間使用するものです。この名簿調製のため各世帯に申告書を配布しますから該当者は、もれ落ちのないように記入の上提出してください。

名簿の申告者

1. 昭和十七年十二月二十一日までに生まれた者(年令二十満了となるが、同氏を再び任命し、全会一致これに同意した。
2. 昭和三十七年六月十五日までに川西町の住民となり住んでいる人(居住期間三カ月を満した者)
3. いままでの名簿ののっている人も申告する。
4. 家族で長期入院している人も忘れずに記入する。

二年目再選の慣例確立

議長以下の申し合わせ任期

昭和三十二年九月、合併後の初議会において、正副議長、常任委員長等について「任期は一カ年とし、再選を妨げない」という申し合わせをして以来、今日まで五年間このことは忠実に履行されて来た。そして、回を重ねる毎に一つの慣例ができ、それが積み重ねられて次第に固定化する傾向を見ている。というのは、一年という申し合わせそのものは忠実に守られていたものの、二年目は例外なしに再選という形がとられているので、実質的には任期二年というものがこれまでの実績であった。これは、一年ではあまりにも短期間で、そのポストにようやく慣れたころはもう改選という不合理な結果となるから、少なくとも二年くらいは据えおくべきだ、という考え方を暗黙のうちに承認したからである。

けれども、これはあくまでも「任期一年」という原則そのものを變更したわけではないので、今回も必ず再選されるという保証にはならなかったわけである。そこでことあたりは、「辞職(選挙)再選」という繁雑な手続きの繰り返しを省略して、辞表はそのまま保留し、任期を名実ともに二年とする、という新しい慣例が打ち立てられる可能性があるかどうか、注目されていたところ、大勢は従来どおり辞表を受理して、投票により後任議長以下の選挙を行なうべしという意見が圧倒的で、結局これまでどおりの手続きにより選挙を行なうこととなった。

自治大臣よりの感謝状

七月執行の参院選で、成績優良町村として感謝状を受けた。

ふるさと

ふたのこがうまれました十六びきうまれましたが二ひきしんでいました。そしのおじいさんがきててつたつてくれました。二じかんぐらいでつづけてうまれました。おしりのところからつるつとまじりのはこの中とはいっていましたが、あとからおあさんふたのところへでていました。わらでからだをふいておへそをいとしはってとりました。かわいでした。色はうすもいろで、キウキウないてにぎやかでした。わが家の豚夫人がお産をしました。夏休みで来あわせていた親戚の子どもと娘は目を丸くしてそのようすを見物していました。前文は、その日の検日記に親子の豚の絵とともに書かれてあった二年生の娘の文です。子豚はどうしてお腹の中でできたのかしら、人間の赤ちゃんはどこから生まれるのかしら、などどさかんに議論をかわした三人の女の子たちは、造化の神の偉大と神秘さに心から驚嘆のようすでした。村の子たちは、卵をうむ鶏、子をうむ山羊、種つけする豚や牛などのなまなましい生命の動きを、じかに肌を感じる機会の子どもが、ピンクムードや、エロとしてあたえられることの多い性の問題も、村では愛らしい家畜たちを通じて神秘的に、大らかに美しくさえ身近かにあります。ただそれを説明するおとなの態度が美しくも、また、暗くみなく、子どもを痛感します。

としよりの日

みんなで老人に祝福を

県から贈り物も

九月十五日「としよりの日」が昭和二十六年に制定されてからとして十二年目になります。人間はだれでも老人になる、いつまでも若く青年でいたいというのは気持ちだけで肉体は日一日と老化してゆくことは生命の法則でこれのみはいたしかたありません。老後の生活が明るく豊かであるようにとねがうことは自然の人情といひまじょう。このような国民的の希望が実を結び国民年金制度が実現された最近には老人福祉法が制定されるのみならず、またとに喜ばしい状況にあります。

千円相当の記念品

川西町では明治二十年九月二十一日以前に生まれた者(七十五才以上)が三百六十七名(男百五十一名、女二百六十七名)となっております。このうち明治五年九月二十一日以前に生まれた者(九十才以上)は七名で次の方がたです。高橋 フサ九二 学校町 登坂 トマ九二 岩瀬 上村子之吉九一 上野 渡貫 徳松九一 新町新田 柄沢 サト九〇 沖立 長谷川常蔵九〇 赤谷 根津 徳蔵九〇 原田

次に記念品については千手・橋地区では、九月十六日それぞれ敬老会の席上でお渡しする計画であります。仙田、上野地区においては今春すでに敬老会の催しもすまされておりますので別途方法を考慮いたしまして九月十五日より二十一日までの「としよりの福祉週間」中に各家庭へおくりする予定であります。

①昭和三十七年九月十五日現在当該市町村の住民であること。
②住民登録のある者。
③明治二十年九月二十一日以前に生まれた者。
④敬老品の種類及び種類別対象者
⑤明治二十年九月二十一日以前に生まれたもの全員に対しては百円相当の記念菓および県知事のお祝いのこと。
⑥文久二年九月二十一日から明治五年九月二十一日までの間に生まれた者に対しては千円相当の記

念品と県知事の褒状。
③文久二年九月二十日以前に生まれた者に対しては千円相当の記念品と褒状が贈られることになっております。

若い人たちはやがてくる老後の生活が健康と福祉を確保できるような努力して平和な家庭明るい社会をつくるためまい進いたしましう。(社会係)

福祉年金支給開始

福祉年金(老令福祉年金・障害福祉年金・母子福祉年金)の支給が六日から開始されました。

まだ、支払を受けていない人はもよりの指定郵便局で支払いを受けてください。

所得状況届のため提出した、国民年金証書の交付を受けていない人は、すぐ、役場社会係で交付を受けてください。その際、お渡ししてある国民年金証書保管証と印かんを持参してください。

戸籍の窓から

うぶ声一舞すニヤかに

- 羽鳥るみ子 又一長女 伊友
佐藤 眞 勇 良 三男 伊友
高橋 菜穂子 倉三長女 伊友
平野 千都 徳太郎一女 山野田
山口 修 寛 二男 木 落
和田 良 昭 莊太長男 仁 田
小山 健 二 行雄二男 四十歩
小川 裕 一 充 長男 岩 瀬
登坂 和子 桂作二女 岩 瀬
引間 智恵子 静子長女 中仙田
石田 敦 太郎松二男 小 脇
丸山 和美 和徳長女 根 深

季節出稼ぎの 斡旋をいたします

ことしも、秋冬期出稼ぎのシーズンがやってきました。

あなたは、どんな計画をお持ちでしょうか。すこしでも好条件の職場を得るようにと、職業安定法に基づき就労斡旋が始まっております。

- ①紡績女工 三十才くらいまで 日給四〇〇〜四五〇円 求社多数
- ②みかん罐詰女工 三十才まで 日給三七〇円 旅費私 (清水市)
- ③みかん取り農耕 男女四十五才まで、食付日給六五〇円 女六〇〇円 旅費私 月一休有給

年齢の一部を次に紹介しますから、ご希望のかたは、安定所または役場へ申し出てください。詳細をお知らせします。

昇天一御のい福を祈る

- 星野 留七 野 口 八〇
 - 須藤 トノ 下 原 九五
 - 野沢 キク 仁 田 五〇
 - 南雲 フミ 三 領 八三
 - 佐藤 悦四郎 藤 沢 六一
 - 高橋 タニ 中仙田 六一
 - 江口 カト 小白倉 八三
- たかさご一御円満に
- 新婦 富橋 清 伊 友
 - 新婦 星名和美 東 京から
 - 新婦 桑原周一 桐 山
 - 新婦 小山タマ 桐 山から
 - 新婦 大海 博 霜 条
 - 新婦 高橋ハナ 外 丸から

研修会に出席して

八月も終わりに近いころ、仙田連合婦人会と連合青年団の合同研修会が行なわれた。団体ごとの集まりにはおびただしいほど出席しているわたくしも、地区の青年団と婦人会が一つになって話しあう会をはじめの経験であった。

この日は、全員が「話しあい学習のすすめかた」について勉強したあと、テーマごとの分科会にわかれて話しあった。実の母親とむすこや娘が、嫁としゆうとが、一つの教室になかよく顔をならべるというほおえましいムードにつつまれ、四百人におよぶ参加者が終始熱心に、暮らしの中の身近な問題をとりあげて討議したのである。

まず何よりも感じたのは、発言が予想外に活発であったことである。しやべらない人はひとりもいなかったようだ。思っていることを何のためらいもなくすなおに発言して、話す、聞く、考える、というたいせつなことがすっかり板についた感じだった。ここ数年米、学級や講座でつまかさねた話しあい学習の成果であろうか。

司会と記録の人たちは、事前に寝食を忘れるほどの勉強をしてきたらしかった。だからこそ、問題のとらえかたやほりさげかた、それを主題にどう結びつけるかといったむずかしい問題を、いともあざやかにやってのけたのだと思う。記録係が要点をメモし、司会者といつねに連絡をとりながら、話しあいを次から次へと展開していっ

た。カケ値のないところ満点に近いでさばってあったといえる。全体報告の中から一つとりあげてみよう。民主化されているはずの地域や家庭で、今なお人間を差別していることばつかが問題になった。とうちゃん、かあちゃんと呼ぶのはうわべだけのことで、アニ、アンネ、アンサやアナサという使いわけがまだ根強く残っているという。こうした悪習は今すぐに改めなければ、その意味もよく理解しない、そのままコトバとして受け継がれてしまふ危険すらある、ということになった。

このほか、嫁はしゆうとの立場を、しゆうとは嫁の立場をよく考えてみようということになった。年よりも集まる機会をつくってあげようということになった。嫁としゆうとの話しあいの会をもとうということになった。結婚式の合理化のために、まず家族で話しあってみようということになった。農休日をつくるために、婦人会と青年団が手をつなごうということになった。全体を通じて、こうした会合を数多くもとうということになった。『出かせぎ』の分科会にはみんなの共感を呼んだ。

さて、いくらよいことを話しあっても、話がその場だけで終わって、これは意味がない。幸いなことに、これらの問題を部落にもちかえって、二つの団体が協力して実践の方法を考えようということになった。すでに話しあいをはじめた部落もいくつかある。あの日、研修会を決してムダでなかった。そう思うとたまらなくうれい。やがて、美しい花が咲くだろう。

自転車防犯登録促進月間

この機会にぜひ登録を

九月は「自転車防犯登録促進月間」、自転車の盗難を防ぐための「自転車防犯登録制度」は、本県では、昭和三十四年十月から実施され、自転車の盗難予防や、自転車泥棒を捕えたりするのにも、たいへん効果をあげ、また、盗まれたり、なくしたり、乗り替えられたり、自転車を、所有者に返すのにもたいそう役立っております。

いっぽう、この制度は、未登録自転車が一台中もあるときは、その効果を十分に発揮することができない仕組みになっております。県防犯協会では、現在、未登録自転車を所持しているかたから、ぜひ、この機会に登録をすすめてください。

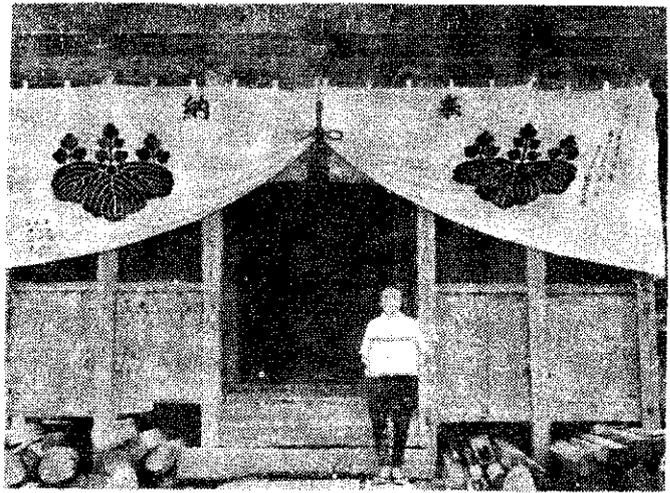
(十日町地区連合防犯協会)

川西町のあいな

川西町が昭和三十一年九月一日みなさまの大きな期待に迎えられ、輝かしい門出をしてから満六十年が過ぎました。この間、幾多の懸案突発的あるいは派生的な難問題を解決して、すくすくと健やかな発展を続けておりますことは、町当局者の英智と勇断に加えて、町議会の和衷協同の賜物と存じ皆様と共に慶賀にたえないところであります。

昭和三十七年九月一日

- 押木 仲治 山田 亀吉
小野塚 孫市 斎 喜 政良
増田 哲男 内山 恵雄



善行紹介 (写真説明) 仁田の山口熊太郎さん(77才)農業、はこのほど、同部落熊野神社に樓幕を寄贈した。これまでも、同神社の除草管理をはじめ部落の青年のスピーカー購入を援助したり善行をつづけている。

赤痢が発生しています

坪山で十三名【五日現在】

八月三十日発生しはじめた坪山の赤痢は九月五日現在十三名になり、五日いっせいの検便を実施防疫につとめております。原因は村に流れている小川の水の利用と考えられます。みなさんも十分ご注意ください。

・頭痛・発熱・下痢、これは一応赤痢ではないかと考えて医師の診断を受けましょう。しるうと療法は危険です。
・手を洗う。食前、用後は必ず

おことわり

「年金問答」 当分の間休載いたします。

町の掲示板

庁内人事

※退職者 押木仲治(教養課教育係)小野塚孫市(産業課商工係長)増田哲男(産業課土木係長)山田亀吉(財政課税務係)斎喜政良(仙田出張所主任)内山恵雄(産業課) いずれも八月三十一日付

で退職されました。広報を通じてと、連名であいさつを寄せられましたので、このページにのせました。ご健康をいのります。

※新採用者 大平剛士、産業課土木係に配属 八月十三日付

川西中千手校舎移転

川西中学校新築工事は、目下どの順調にすすみ、第一期工事はこのほど一応完成を見た。普通教室六、保健室、校長室、職員室等で九室、廊下、階段、ベントハウスと加えて二九一坪となっている。それに千手校舎の四教室が移築され、二階に二教室をとり、階下に宿直室、使丁室、湯飲み所が装いをかえて誕生した。それで、とりあえず二年、三年の八学級が去る九月三日新校舎に移転した。

教材、教具の大部分はトラック五台をフルに動かし、PTAのかたがたが運搬に率仕してくださり、生徒たちはおのおのの机、腰掛をそれぞれ炎天下に持ち運び、現在ベソンの香も新しい新校舎で四日からさっそく授業を開始しました。

電話は六十六番、有線は九の二十五番で開通、先生、生徒ともに張りきっている。

へき地校きょう虫卵検査成績 検査に参加したのは中仙田小と赤岩小の二校で、その結果がこの程まとまった。

T・M式検査紙(三回検査)による有卵率は、中仙田小二五、九パーセント(検査人員一四三)に対し有卵者三七)赤岩小三五、九パーセント(一五三名に対し五五名)。

なお、中越地区で三五、九、県下全体では三四、六という割合になっている。



かわにし 俳壇

太田白南風選 上野みよ

○川底を蟻道続々日照かな どの畑も歌を造りて雨を待つ

越ヶ沢 小川辰 炎天を突き噴水の光の散る 鈴虫の鳴きつづきおる星明り

小白倉 田中 緑 日盛の干したるタバコにおいくる 元町金 子 鉄 平

踊の輪大きくなりて草をふむ みよしさん、淡々と云ってよく 日照の情と心を表わしている。写生の表現は良いと思う。この調子でいけばうまくなる。

祭りが終わると秋風が しみじみと身にしみ、とり入れに心せられるきょうこのごろです。二年続いた町民体育大会は九月はじめの予定でしたが、すっかり早まった格別りのため、お流れになったことは本当に残念ですが来年は万全の計画ですばらしい大会を待ちたいものと思ひます。

この夏も千手十七夜祭りを皮切りに各部落で慣例の青年相撲が開かれていましたが、年々元気がふれる村の名草相撲力士の赤銅色の姿が少なくなり一時の盛会は望めなくなつてきています。都会へと青年が流れていく時代とはいえず、まことにさびしいかぎりです。史上二番目の豊作の秋がつつがなく収穫を終わるよう農家各位が健康な毎日を送られんことを祈ります

編集後記